

平成22年度 全国学力・学習状況調査について

1. 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る
 そのような取組を通じて，教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

2. 調査の対象学年

小学校第6学年，特別支援学校小学部第6学年
 中学校第3学年，中等教育学校第3学年，特別支援学校中学部第3学年

3. 調査の内容

教科に関する調査（国語，算数・数学）
 ・主として「知識」に関する問題 [国語 A ，算数・数学 A]
 ・主として「活用」に関する問題 [国語 B ，算数・数学 B]
 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査
 ・児童生徒に対する調査
 ・学校に対する調査

4. 調査の方式

抽出調査及び希望利用方式

- 抽出調査：都道府県毎に平均正答率が95%の確率で誤差1%以内になるよう抽出率を設定（抽出率約30%）
- 希望利用方式：抽出調査対象以外の学校は、学校の設置管理者の希望により、調査を利用することができる

5. 調査日・結果公表日

- 調査日 平成22年4月20日（火）
- 結果公表日 平成22年7月30日（金）

6. 全国学力・学習状況調査 抽出・希望利用回答状況

	全対象 学校数	抽出調査		希望利用				全体	
		抽出調査 学校数	抽出率	希望利用 対象の学 校数	希望利 用する 学校数	希望利用対象 学校のうち、 希望利用する 学校の割合	全対象学 校のうち、 希望利用 する割合	抽出 + 希望利 用学校 数	抽出 + 希望利 用の割 合
【小学校】対象児童数(概算)【抽出調査】約27万5千人【希望利用】約52万3千人【抽出+希望利用】約80万人									
公立学校	21,300	5,376	25.2%	15,924	10,206	64.1%	47.9%	15,582	73.2%
国立学校	76	48	63.2%	28	15	53.6%	19.7%	63	82.9%
私立学校	199	29	14.6%	170	24	14.1%	12.1%	53	26.6%
合計	21,575	5,453	25.3%	16,122	10,245	63.5%	47.5%	15,698	72.8%
【中学校】対象生徒数(概算)【抽出調査】約43万9千人【希望利用】約36万4千人【抽出+希望利用】約80万人									
公立学校	10,094	4,349	43.1%	5,745	3,591	62.5%	35.6%	7,940	78.7%
国立学校	81	49	60.5%	32	14	43.8%	17.3%	63	77.8%
私立学校	715	123	17.2%	592	43	7.3%	6.0%	166	23.2%
合計	10,890	4,521	41.5%	6,369	3,648	57.3%	33.5%	8,169	75.0%

平成22年度全国学力・学習状況調査の結果について

教科に関する調査の結果

「活用」に関する問題で、記述式問題を中心に課題が見られる。

資料や情報に基づいて自分の考えや感想を明確に記述すること、
日常的な事象について、道筋を立てて考え、数学的に表現すること 等

各設問を個別に見ると、「知識」に関する問題においても継続的な課題が見られる。

文の構成を理解し、伝えたい内容を適切に書いたり、推敲したりすること、
割合や比例など、2つの数量の関係を理解すること 等

思考力・判断力・表現力等といった、知識を活用する力と合わせ、基礎的・基本的な知識・技能もしっかりと定着させることが重要。

中学校調査のうち、19年度調査を踏まえた問題において、小学校調査から引き続き課題が見られるものがある。

スピーチなどにおける話し方の工夫をとらえる、円の面積をもとめる 等

小学校・中学校を通じた継続的な指導が必要。

質問紙調査の結果(児童生徒)

算数の勉強が好きな小学生の割合が21年度と比べやや低くなるなど、今後注意して見ていくべき項目もあるが、**関心・意欲・態度、宿題、基本的な生活習慣等の多くの項目で肯定的な回答をした小中学生の割合が高くなっている。**

3歳から6歳までの間に、「幼稚園に通っていた」、「保育所に通っていた」、「どちらにも通っていなかった」小中学生の順に、正答率が高い傾向が見られる。

質問紙調査の結果(学校)

国語、算数・数学の宿題をよく与える、宿題の評価・指導をよく行う、国語の指導として書く習慣を身に付ける授業を行う、**PTAや地域の人々の参加等、学力向上のための取組等が増加。**

家庭学習の取組として、**調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出していた学校の方が平均正答率が高い傾向が見られる。**

平成 22 年度全国学力・学習状況調査 新たに分かったことの例

○教科に関する調査

○ 今年度の中学校調査は、平成 19 年度小学校調査を受けた児童が調査の対象であったことから、その結果を踏まえた問題を出題したところ、次のような設問で課題が見られた。中には小学校から引き続き課題が見られるものもあり、小学校・中学校を通じた継続的な指導が必要である。

(中学校国語)

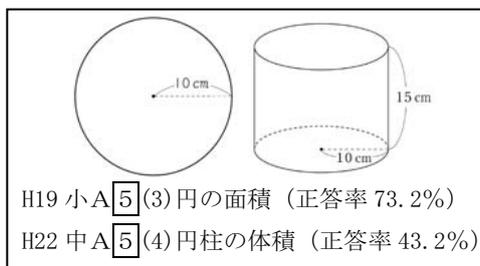
A[3]— スピーチなどにおける話し方の工夫をとらえる。(正答率 59.7%)

平成 19 年度小学校調査では、聞き手に分かりやすいスピーチのために大切なことを理解しているかどうかをみる問題 (A[7]) を出題したところ、正答率は 55.8%であった。話し方の工夫をとらえることに引き続き課題がある。

(中学校数学)

A[5](4) 円柱の体積を求める。(正答率 43.2%)

平成 19 年度小学校調査 (円の面積を求める。正答率 73.2%) においては、円の面積を直径×円周率や半径×円周率で求めている解答が 9.3%であったが、同様の誤りをしたと考えられる生徒 (解答類型 8) が今回も 11.9%おり、円柱の体積を求める場面でも、底面の円の面積を求める際に円周の長さなどと混同している生徒が同程度いると考えられる。



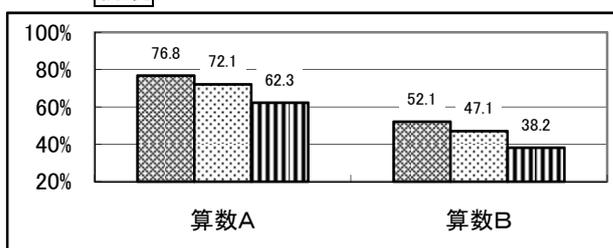
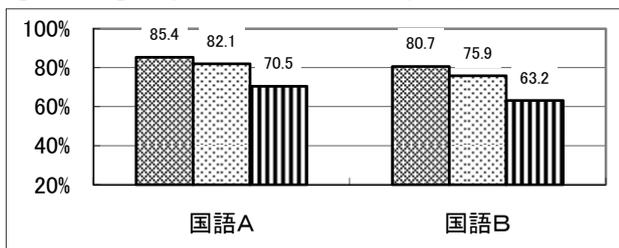
○児童生徒質問紙

◎ 3 歳から 6 歳までの間に、「幼稚園に通っていた」児童生徒、「保育所に通っていた」児童生徒、「どちらにも通っていなかった」児童生徒の順に、正答率が高い傾向が見られる。

幼稚園に通っていた
 保育所に通っていた
 どちらにも通っていなかった

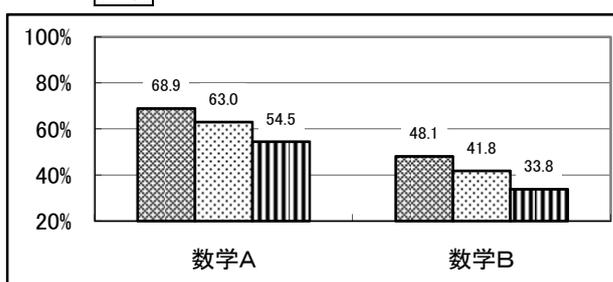
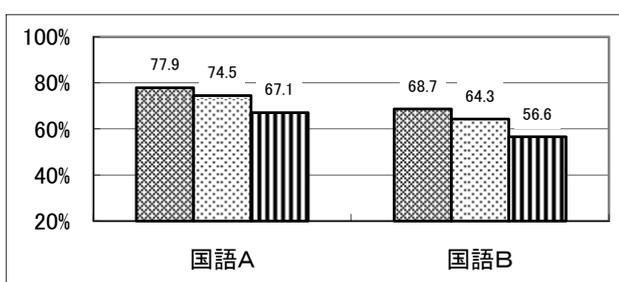
【小学校】*質問 35：保育所や幼稚園に通っていましたか

新規



【中学校】*質問 35：保育所や幼稚園に通っていましたか

新規

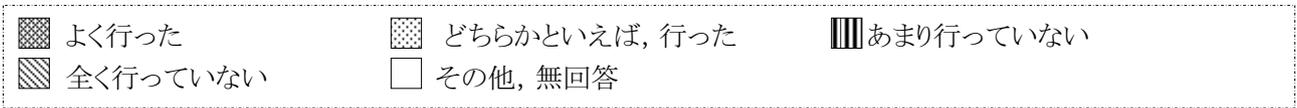


※「わからない」の選択肢は省略している。

○学校質問紙

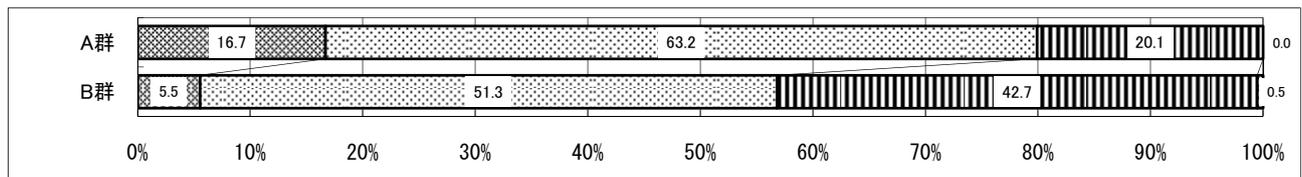
家庭学習・家庭との連携

◎平均正答率が5ポイント以上全国平均を上回る学校（A群）の方が、5ポイント以上全国平均を下回る学校（B群）より、国語・算数（数学）の指導について、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出していたと回答している割合が高い傾向が見られる。

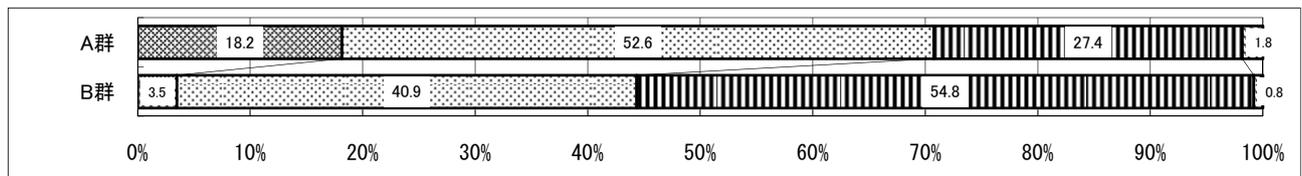


* 質問 81(80)：家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を出していますか **新規**

【小学校】



【中学校】



※()内の質問番号は、中学校調査の質問番号である。

※A群及びB群による比較を行っているグラフについては、小学校第6学年又は中学校第3学年の学級数が2学級以上の公立学校(特別支援学校を除く)について分析している。国語A・B、算数(数学)A・Bのすべてにおいて、学校の平均正答率が、公立学校に在籍する児童生徒の正答率の全国平均を5ポイント以上上回る公立学校を「A群」、全国平均を5ポイント以上下回る公立学校を「B群」とする。

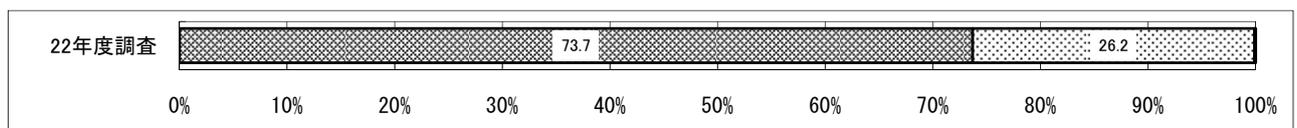
全国学力・学習状況調査の活用

◎全国学力・学習状況調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行った学校の割合は、小学校は約74%、中学校は約63%である。



* 質問 49：平成21年度調査や学校評価の結果等を踏まえた学力向上の取組について、保護者や地域の人たちに対して働きかけを行いましたか **新規**

【小学校】



【中学校】

